



<CAM フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2019年8月9日

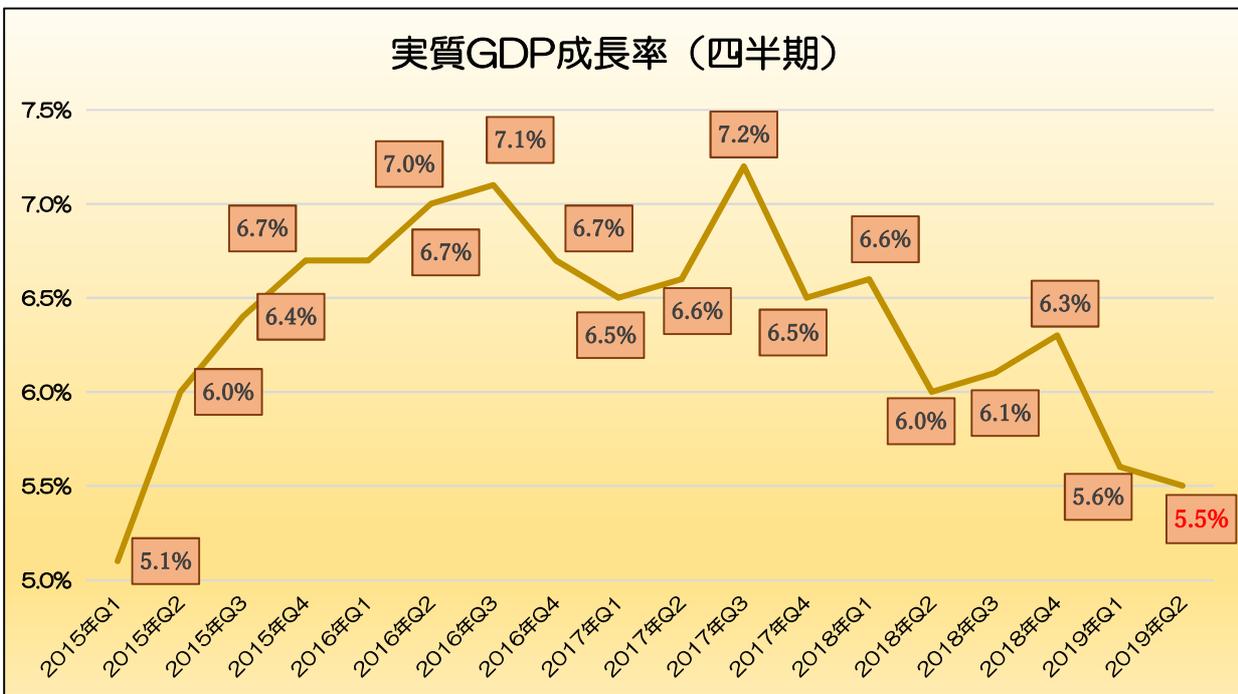
フィリピンの第2四半期 GDP

予想外に鈍化、中銀は0.25%利下げ

フィリピン政府が発表した4～6月期（第2四半期）の実質 GDP 成長率は前年同期比 5.5%で、3年半ぶりに 6.0%を下回った1～3月期（第1四半期）の5.6%から僅かに鈍化した。市場では 5.9%程度が予想されていた。

1～3月期のGDPが減速したのは、物価上昇で個人消費が冷え込んだうえ、政府の新年度予算の成立が遅れ公共事業が停滞したためだが、4～6月期はGDPの約7割を占める個人消費が対ドルペソ高や海外出稼ぎ労働者送金（OFW）により堅調に伸びたものの、公共事業の遅れを取り戻せなかった。

政府は今後インフラ投資を中心とする積極的な公共事業で景気下支えをする方針。フィリピン中央銀行は同日 0.25bpt の利下げを行った。



出所：フィリピン統計庁のデータをもとにキャピタル アセットマネジメントにて作成
以上

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社が作成したもので、投資信託の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。 | 1